

令和元年「産業・建設委員会」視察調査報告



過疎地域における地域振興について

「南小国町の事例を奥飛騨温泉郷地域の地域振興との比較の中で考える

視察地：熊本県南小国町		
・黒川温泉観光旅館協同組合（組合事務所）		
・SMO 南小口（未来づくり拠点 MOG）		
参加者	◎中箴博之	○榎 隆司
	石原正裕	谷村昭次 松山篤夫
	橋本正彦	中田清介 谷沢政司
事務局	森下 斉	川田絵美

中田清介

1. 南小国町の概要

人口：4,048 人 面積：115.90 m² 世帯数：1,642 歳入総額：4,610,410 千円 歳出総額：4,131,745 千円 経常収支比率：89.2 地方債現在高：3,225,883 千円 積立金現在高：1,255,818 千円 財政調整基金：815,354 千円 減 債 基 金：4,584 千円 特定目的基金：435,900 千円 標準財政規模：2,207,442 千円 財政力指数：0.21 実質公債費比率：5.8 将来負担比率：2.0	 南小国町は九州の中央部、熊本県の東北部に位置しております。地形は阿蘇外輪山、九重連山の標高 430m から 945m にありまして起伏が激しく、一部は阿蘇くじゅう国立公園に属します。その中を筑後川の源流として大小 7 つの川が北へ流れます。総面積 115.86 平方 km の 85% が山林原野で占められ、緑と水のきれいな観光と農林業を主産業とする人口約 4,000 人の純農村です。
--	---

2. 就業構造:H24 年度経済センサス

	総数	農林業	鉱業	建設業	製造業	電気 ガス 水道	運輸 通信業	卸売 小売業	不動産業	サービス業	公務
事業所数	291	5	－	42	16	－	3	61	2	159	－
従業者数 (人)	2,138	54	－	240	108	－	16	262	6	1,438	－

資料：事業所・企業統計調査／経済センサスー活動調査

3. 年間製造業等出荷額

年次	事業所数	従業者数(人)
平成 24 年	7	97

4.年間商品販売額

年次	商店数(店)	従業者数(人)	売場面積(m ²)	年間商品販売額(万円)
平成 24 年	61	230	5,798	302,277

資料：商業統計調査・平成 24 年経済センサスー活動調査

5.農業 専業農家:108 1 種兼業農家:61 2 種兼業農家:219 (H22 農林業センサス)

6.年間観光客入込数

年	宿泊客数			日帰り客数		総計
	県内	県外	うち外国人	県内	県外	
H16	102,206	351,858	3,289	250,002	854,386	1,558,452
H17	76,442	358,996	9,180	234,480	759,730	1,429,648
H18	65,746	380,910	21,635	227,517	795,164	1,469,337
H19	89,463	419,860	31,696	238,152	766,012	1,513,487
H20	61,832	362,496	36,808	248,262	483,870	1,156,460
H21	50,584	355,053	17,969	185,960	563,490	1,155,087
H22	49,218	350,841	12,097	186,346	561,191	1,147,596
H23	48,747	371,667	8,381	156,863	594,656	1,171,933
H24	48,374	367,245	9,959	157,559	583,389	1,156,567
H25	64,557	383,580	16,227	159,567	579,629	1,187,333
H26	50,718	393,318	21,555	133,041	549,924	1,127,001
H27	50,180	397,107	51,306	145,803	561,854	1,154,944
H28	38,368	303,607	44,621	147,693	574,474	1,064,142
H29	27,712	320,668	67,403	173,092	527,888	1,049,360
H30	31,014	350,133	86,994	160,307	546,102	1,087,556

南小国町は NPO 法人「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

「日本で最も美しい村」連合とは、失ってしまえば二度と取り戻せない日本の農山村の景観や環境、文化を守り、将来にわたって美しい地域を守り続けていこうと取り組む団体です。

地域に残る景観や文化を守ることによって観光的な付加価値を高め、地域資源の保護と地域経済の発展に寄与することを目的としています。

加盟条件

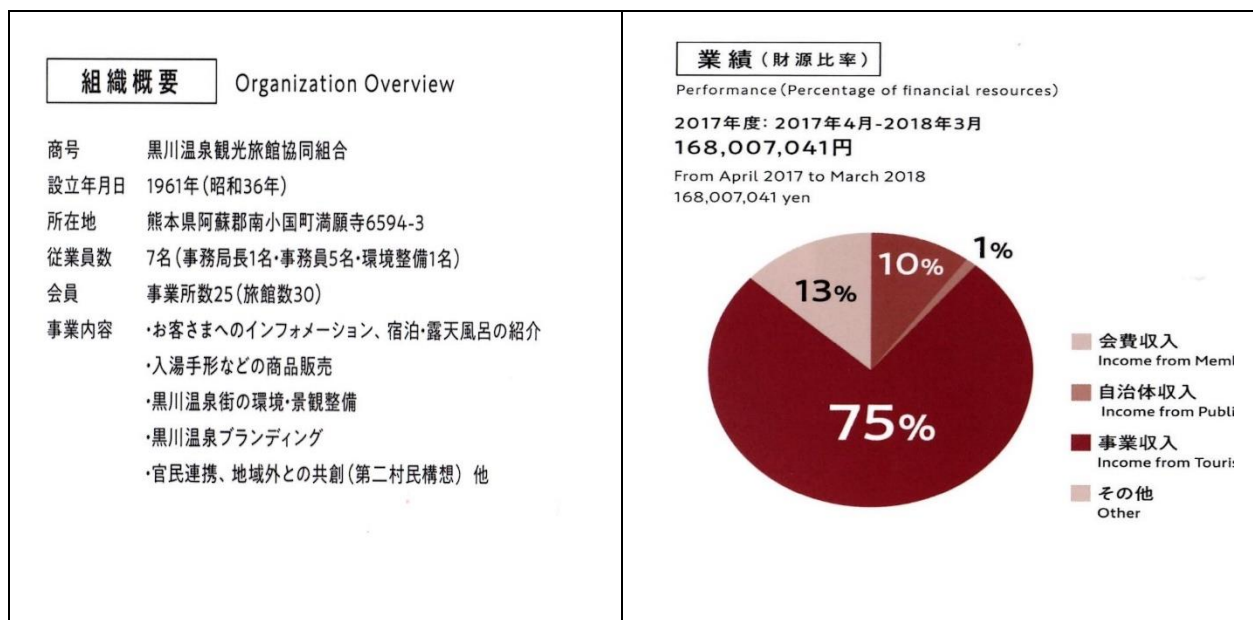
- (1) 直近の国勢調査の人口が、概ね 1 万人以下であること
- (2) 次に定める地域資源が 2 つ以上あること
 - ・景観 — 生活の営みにより作られた景観のこと
 - ・環境 — 豊かな自然や自然を活かした町や村の環境
 - ・文化 — 昔ながらの祭りや郷土文化、建築物など
- (3) その他、地域資源を活かす活動を連合が評価し決定します。
 - ・美しい景観に配慮したまちづくりを行っている。
 - ・住民による工夫した地域活動を行っている。
 - ・地域特有の工芸品や生活様式を頑なに守っている、など

○ 南小国町の地域資源 「黒川温泉郷」「草原と小国杉」

南小国町は 2005 年 10 月の発足当初から加盟しており、日本中の美しい村達と活動を共にしています。

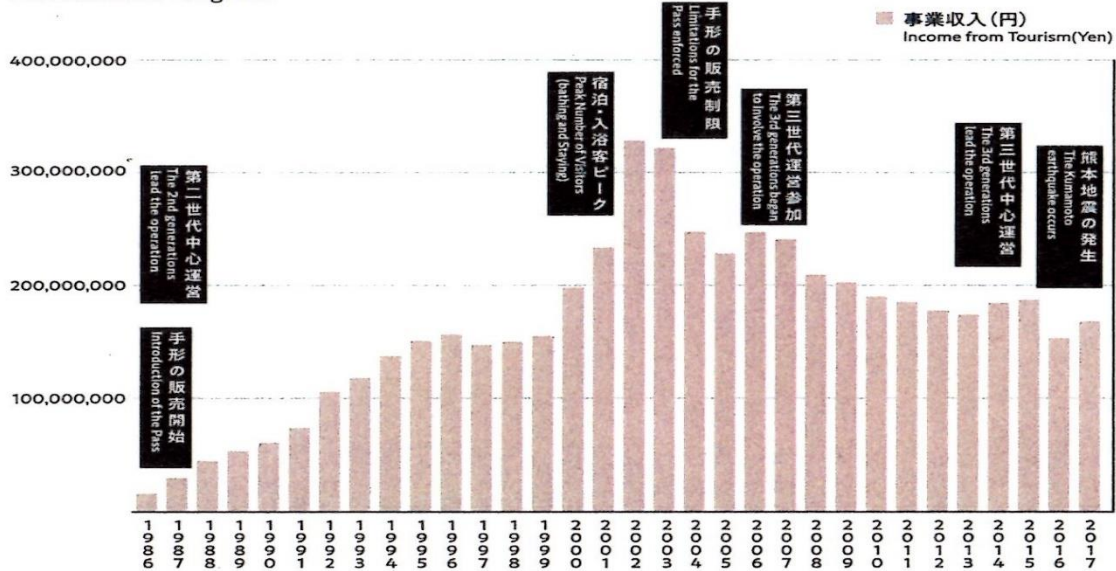
【黒川温泉観光旅館協同組合の活動とSDCs】

1. 黒川温泉観光旅館協同組合の現況



業績推移

Performance Progress



宿泊者数

年間約30万人

※入込み客は約3倍 Day visitors are 900,000 annually

Number of guests per year

Average of 300,000 guests annually

YEAR	1月 JAN	2月 FEB	3月 MAR	4月 APR	5月 MAY	6月 JUN	7月 JUL	8月 AUG	9月 SEP	10月 OCT	11月 NOV	12月 DEC	合計 TOTAL
2018	21,142	21,593	27,332	23,404	24,259	18,572	16,977	25,061	21,879	24,735	28,767	24,765	278,486
2017	18,026	17,432	24,627	20,559	22,380	17,537	15,383	23,059	19,024	23,518	26,216	22,785	250,546
2016	22,001	24,596	28,662	14,045	7,899	7,116	16,435	25,362	23,981	19,959	24,010	23,061	237,127
2015	20,182	21,597	28,835	26,540	29,435	20,932	21,273	30,969	26,763	29,371	30,995	25,576	312,468
2014	18,906	19,322	29,094	25,175	28,447	20,699	20,662	30,256	25,737	28,120	32,296	23,593	302,307

外国人宿泊者数

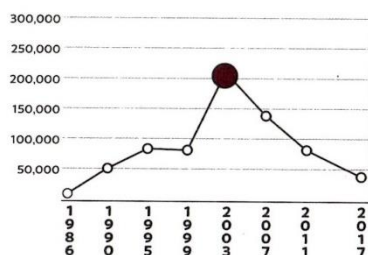
全宿泊者の約25%

Foreign guests per year

25% of all guests

YEAR	1月 JAN	2月 FEB	3月 MAR	4月 APR	5月 MAY	6月 JUN	7月 JUL	8月 AUG	9月 SEP	10月 OCT	11月 NOV	12月 DEC	合計 TOTAL	比率 RATIO
2018	6,777	8,071	4,871	7,108	5,490	4,606	3,602	3,561	4,622	6,411	7,463	8,622	71,204	25.6
2017	4,663	3,997	4,870	5,074	3,836	3,408	3,144	3,091	3,092	6,430	4,536	6,644	52,785	21.1
2016	5,600	7,057	4,229	2,362	405	755	1,335	1,515	1,888	2,574	3,779	3,633	35,132	14.8

外国人宿泊者数 韓国:42% 中国:11% 香港:17% 台湾:9% その他 21%



入湯手形の販売
推移:販売累計
は約300万枚。
一枚1,300円。
一枚で3か所の
露天風呂に!

黒川温泉の大切な収入源である温泉手形。1896年の販売依頼売り上げを伸ばしてきた。2003年にのピーク時にはオーバーツーリズムの弊害が出た為一時期は販売制限をかけられた。2017年の約5万枚の販売でも、約6千5百万円の売上高。、組合活動の経済的自立の核となっている。

「黒川温泉一旅館」という理念：一軒の繁盛旅館を生むより黒川温泉全体でともに反映していこうという理念。1994年組合青年部により活路開拓ビジョン策定会議で生まれた。

「理念に基づく3つの施策」

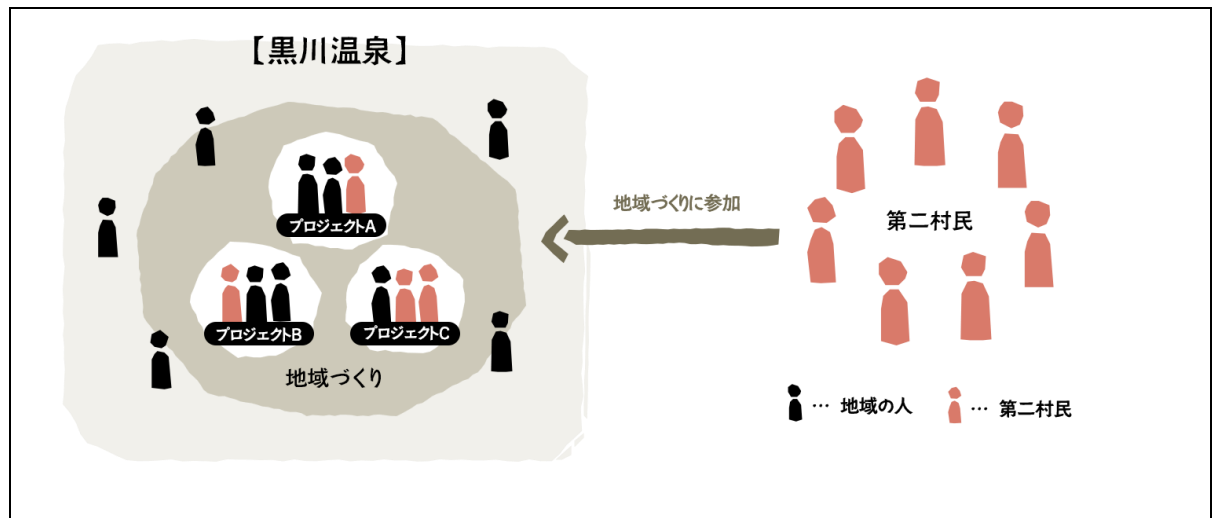
- ① **入湯手形の導入** 各旅館に自然景観に富んだ露天風呂を設置したが、敷地に制約でどうしても設置できない旅館への救済策としても入湯手形を導入。30年以上継続して累計約 300 万枚販売。
- ② **景観づくり活動** 2002年には「黒川地区まちづくり協定」を締結。植樹累計約2万本に取り組んだ。
黒川らしい景観の特徴 ・他の腹側を中心とする自然豊かな景観 ・背景となる山並みと谷間の地形的特徴が感じられる景観 ・住民の取り組みによる緑豊かな通りの景観 ・建物と緑のバランスがとれた景観 ・黒川の歴史や郷土性が感じられる景観資源による個性的な景観 **景観が評価され鍛冶数の賞を受賞しています。**
- ③ **共同資源の活用** 共同看板の設置 ・共通雪駄、共通傘 ・共同浴場(地蔵湯、穴湯) ・転泊

「年間イベント」 年間を通じて開催されるイベントは豊富。季節ごとの木々の表情とともに紹介されています。

- ・ 3月野焼き ・ 5月地蔵祭り ウォーキングイベント「野道に行く」 ・ 6月ホタルルアー、露天風呂の日、朝ピクニック ・ 7月朝ピクニック ・ 8月川端夜市、瀬の本高原マラソン ・ 9月吉原神楽秋季例大祭、奥の院祭り、阿蘇の絶景サイクリング、朝ピクニック 10月温泉感謝祭、ウォーキングイベント「野みちをゆく」、タボレッタポプリ作り体験 ・ 12月湯あかり（クリスマス頃～3月末）、あか牛フェア ・ 1月元旦ふるまい汁 やまなみ太鼓初打ち（元旦）、どんどや、やまなみ太鼓&餅つき（隔週日曜）

黒川温泉第二村民構想 ～黒川温泉を二つ目のふるさとに～

コンセプト：緑豊かな山々に囲まれた奥阿蘇にある小さな里山の温泉地「黒川温泉郷」。ここでは「黒川一旅館」という地域理念のもと旅館が一つにまとまって地域づくりを行ってきました。それから数十年が経ち、この地域でも、他地域と同様に少子高齢化の波が押しよせ経済が疲弊していくなかで、追い討ちをかけるように2016年4月熊本地震が発生しました。この震災で、観光業が落ち込んだ影響は地域全体にマイナスの波及効果があることを目の当たりにしました。この経験によって、これからは宿だけでまとまるのではなく農林業など他産業や地域外の方々としっかりと連携し、共創する地域づくりをしていくことが本当の地域の経済循環をつくることになるとわたしたちは再認識しました。こうしてできたもう一つの地域理念が「黒川一ふるさと」です。他産業や行政といった地域の関係者や、地域外の方々と共に創しながらこの「ふるさと」を持続可能なものにしていこう。わたしたちは、主に里山を構成する多くの資源を維持し活用することで、持続可能な地域の経済循環を実現していきます。そのためには地域住民だけでなく地域外の皆様の力が必要です。ぜひ黒川温泉の「上質な里山の温泉地」づくりにご参加ください。



このような方におすすめ！

第二村民への登録は無料となっておりますので、お気軽ご参加ください！

- ☆今の仕事・学業をしながらでも地域づくりの現場に関わりたい
- ☆自分の持っているスキルを地域で活かしたい
- ☆プロボノとして地域に関わりたい
- ☆黒川温泉が好き 阿蘇が好き
- ☆温泉や田舎の里山に興味がある
- ☆地域住民や地域のなりわいに関心がある

このような活発な活動で持続可能な未来づくりに向かっています。またこのような様々な活動をバックアップする黒川温泉の「持続可能な開発目標SDGs」への取り組みを進めています。

黒川温泉の「持続可能な開発目標（SDGs）」への取り組み

Initiatives for Kurokawa Onsen's Sustainable Development Goals (SDGs)

SDGs(Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標)とは、2015年の国連総会で採択された国際社会共通の目標です。国連加盟193ヶ国が、2030年までに達成するための課題として「17の目標」を掲げています。黒川温泉では持続可能な豊かな地域をめざしてSDGsに積極的に取り組んでいます。

Sustainable Development Goals (SDGs) are the goals set by the United Nations General Assembly in 2015. The 193 member nations of the United Nations have taken up the challenge of the "17 Goals" to achieve by 2030. At Kurokawa Onsen, we are working proactively to achieve these goals to create a sustainable and bountiful region.



※SDGsに関する黒川温泉の活動は、取り組みを紹介するページで該当するアイコンを表示しています。

「考察：黒川温泉郷の取り組み事例と奥飛騨温泉郷地域の比較で考える温泉観光地の地域振興と地域再生」

1. **入湯手形の取り組み**：黒川温泉の入湯手形は1986年からであるが、事業収入の推移を見てもわかる様に手形の販売制限の波を乗り越えても組合の事業収入の核として根付いている。黒川温泉から奥飛騨温泉・福地へその仕組みの勉強に來られたと聞いています。現状を聞くと奥飛騨温泉郷では一時の勢いはなく尻すぼみの状態と聞きます。宿泊客と湯めぐりのみの客層との差別化の問題がそこにはあったのだと聞いています。やはり宿泊客の満足度を高めるための差別化が上手く機能していったのが、黒川温泉の「競創と共創」の行動指針であったと見て取れます。「互いに競い宿を創り、共に集い地域を創る」の精神で取組む「黒川温泉一旅館」のまとまりがその取り組みを成功へと推進していったのかなと感じてきました。

2. **活動基盤を支える経済的自立**

黒川温泉関連事業 売上高				
	内訳	2015年度	2016年度	2017年度
会費収入	会費	8,151,918	5,704,903	8,520,210
	宣伝広告費	8,640,000	5,130,000	9,000,000
	小計	16,791,910	10,834,903	17,520,210
自治体収入	補助金	5,263,716	3,235,096	2,116,000
	小計	5,263,716	3,235,096	2,116,000
事業収入	入湯手形収入	98,652,000	68,613,700	69,566,200
	物販収入	24,952,322	16,679,673	19,070,547
	かつぼ事業収入	853,500	1,044,000	1,392,000
	ロッカー事業収入		444,300	820,900
	事務手数料	610,205	351,699	366,181
	サイト予約手数料	3,755,742	1,723,883	2,511,563
	補助景観事業	13,200,000	8,900,000	14,160,000
	共同宿舎事業	8,900,000	5,281,250	5,381,040
	駐車場不動産事業	3,914,400	3,914,400	3,914,400
	廃棄物処理事業	7,933,850	8,752,899	9,364,126
	小計	164,572,019	115,705,804	126,546,957
その他	雑収入他	606,928	299,270	10,172,098
	小計	606,928	299,270	10,172,098
	合計	187,234,576	154,092,812	168,007,041

温泉旅館組合会館の研修で示された「黒川温泉関連事業 売上高の推移」三年分です。組合事業に自信のあるところは事業収支について明確にその情報を開示されます。黒川温泉は30軒の旅館の集まりです。会費収入についてみれば単純に30件で割ったとしても月額24,000円弱。加盟旅館の概算売上高70億円と発表される中にあっては無理な賦課にはなっていないと見ます。奥飛騨の場合奥飛騨地域全体の観光協会費の他に、地区別の観光関連経費が加算されており、個々の事業費負担に少し無理があったと見ています。又広告宣伝費やサイト予約手数料の在り方は、若い経営者の積極的な経営参加の表れでもあり、1986年以来の第2世代、第3世代への事業継承がうまくいっている証と捉えられます。これもひとえに「入湯手形」の導入による組合事業の経済的自立が図られたことがきっかけで、多くに事業が好循環の中で推移しています。事業収入で1億円以上を稼げる環境は羨ましい限りです。

3.入湯税への考え方と行政との協働 平成1年度南小国町予算では、入湯税収は 49,501 千円と計上されています。

黒川温泉関連事業から見る行政からの補助金収入は、2017 年度 2,116,000 千円、2016年度 3,235,096 千円、2015 年度 5,263,716 千円。意外に少ない額と委員からは質問が相次いだ。元々高山市でも目的税としての入湯税の使途には、火災災害に備えるなどの施設・機器の整備や観光施設整備等の投資に充てられていた。合併以後観光振興への使途が拡大され、現状では入湯税の内2億円を観光コンベンション協会などへの観光振興目的の直接補助に充てられるようになった経緯がある。その意味では黒川温泉観光旅館協同組合の説明では、消防設備等の南小国町全体の観光振興に充てられることを当然のことと話され、特別の行政からの補助等には淡白な説明があった。自分たちの地域振興には、自主財源が潤沢にありそれを活用して立派に活動ができている、その自負があるからだと感じてきました。我田引水ではなく、まず地域全体の観光振興に考えを至らすことは、黒川温泉が南小国町の地域資源として認められるその力の源泉でもあると納得してきました。

3.地域についてのSDGs の意義:地域についてのSDGs 意義という事で次のように植われています。「SDGs とは今後の地域や社会を考えた時、だれ一人取り残さず、持続可能で幸せな社会を創っていくために必要な27の側面を目標としています。自治体や地域ではSDGs を自分たちの活動を振り返ったり、今後の取り組みを考えたりする際のチェックリストとして活用することもできる」、「それは世界と足並みをそろえてまちづくりを進めるという、独りよがりにならないまちづくりにも役立つ」、と。

南小国町共有ビジョン／ 2050年の“町のありたい姿” Minamioguni Joint Vision Plan — Points in Building an “Ideal Townscape” for 2050

き 築いてきた美しい里山の景観、伝統文化、
生業を次世代に引き継いでいく里
To establish a beautiful landscape, traditional culture,
and livelihood that the next generation can pass onto the next.

よ 寄り添い支え合い、人と人のつながりを大切にし、
一人一人が誇りを持ち、多様な生き方を尊重しあえる里
To instill an ethic where residents live side by side,
support one another, take care of interpersonal ties;
and respect diversity.

ら ライフラインを充実させ、地域全体で協力し、
だれもが笑顔で安心して過ごせる里
To continuously improve the region's basic utility structure,
allowing the region to work together as a whole so that
everyone has a bright outlook and peace of mind.

の のびのびと学べる環境の中で、
すべての人が夢に向かって挑戦できる里
To encourage residents to strive for their dreams
in an environment that fosters learning.

さ 再生可能エネルギーを地域資源から生み出し、有効活用し、
未来につながる豊かな暮らしを実現する里
To create a model for wealth in the region by finding useful
applications for the region's renewable resources.

と 共に連携し、世界とつながり、
世界に誇れる幸福な暮らしができる里
To work cooperatively, connect to the world,
and become a place of pride in the world.

4.SDGs への取り組みとありたいまちの姿 南小国町と黒川温泉はSDGs の取り組みを通じて将来へのまちづくりへの協働を始めています。南小国町共有ビジョン「2051 年のまちの在りたい姿」はバックキャストによる南小国町のまちづくりの指針です。町はSDGs の取り組みを通じて、その「まちづくり」について都会への発信や世界への発信を盛んにし、移住者や関係人口の増加へのアクションを強めていけます。黒川温泉はこれまでの活性化への取り組みの継続を通じて、SDGs をその活動のチェックリストとして活用して行く事ができます。お互いがその取り組みを進めることでウィンウィンの関係になれるとの信念です。

5. 昨年調査研究した奥飛騨地域の地域振興については、思い切った地域再生という発想が必要であり、中途半端な活性化策ではピーク時から半減した67万人という観光入込数の現実に対応しきれない観光協会や地域の苦悩、各事業者の苦悩が浮かび上がったところである。転じて黒川温泉の活動はすべての事業が好循環の中で推移しており、2代目3代目への事業継承も順調である。入湯手形の件でも奥飛騨では尻すぼみといった状況にある中で単年度で約7、000 万円の事業収入を上げている。この落差はどういったところに根拠を持つのだろうか。当事者の取り組みへの意欲の差であると言ってしまっただけで済むことなのだろうか。稼げる地域には後継者は育つものであり、情報化への取り組みも活発で、若者を引き付ける要素、都会の関係人口等とのネットワークの構築についても障害は生まれない。もう一つ入湯税の観光開発への投入など、行政への依存の問題もあるのではないのだろうか。稼げる組合事業で経済基盤の自立が図られている黒川温泉と奥飛騨温泉郷の落差は大きい。

まとまりの良い黒川温泉郷といった印象を強く受けてきました。まとまりの良さが地域を世界の黒川温泉という地位に押し上げたのであり、熊本地震後の都会の関係人口とのネットワークの構築とそのきずなの強さは、目を見張るものがあります。行政が取り組みを強めているローカルベンチャーの取り組みも、そうした素地が地域に根づいてきたからこそ可能になったのだと考えます。

今回南小国町「SMO南小口」の活動拠点MOGIにて、ローカルベンチャーの取り組みについても研修を受けたのであるが、紙面の都合上割愛させていただく。